

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和3年4月21日)

- 1 令和3年度国土交通省関係予算の配分について
【県土総務課】……2ページ
- 2 第2回中海・宍道湖圏域道路整備勉強会について
【道路企画課】……6ページ
- 3 米子自動車道 江府～溝口間の4車線化事業許可について
【道路企画課】……7ページ
- 4 鳥取西道路の交通安全に関する検討について
【道路企画課】……8ページ
- 5 一級水系流域治水プロジェクトの公表について
【河川課】……9ページ
- 6 大呂地すべり検討会の開催結果等について
【治山砂防課】……18ページ
- 7 米子港のウォーターフロント活性化に取り組む民間事業者の選定について
【空港港湾課】……19ページ
- 8 クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」の境港寄港について
【空港港湾課】……20ページ
- 9 「鳥取砂丘コナン空港 赤井秀一カラーオブジェお披露目式」の開催について
【空港港湾課】……21ページ
- 10 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
【技術企画課・道路企画課・道路建設課・河川課・治山砂防課】……22ページ

県 土 整 備 部

令和3年度国土交通省関係予算の配分について

令和3年4月21日
 県土総務課

国の令和3年度予算が3月26日に成立し、3月30日に予算の配分が発表されました。

国土交通省では、「国民の安全・安心の確保」、「持続的な経済成長の実現」、及び「豊かで活力ある地方の形成と多核連携型の国づくり」等に重点的に配分されており、特に、気候変動の影響により激甚化・頻発化する風水害や切迫する地震災害等に屈しない、強靱な国土づくりのため、防災・減災が主流となる安全・安心な社会を構築することとされています。

県土整備部関係の概要は次のとおりです。

1 直轄事業（県土整備部所管分、事業費ベース）

○国土交通省（県土整備部関係）の直轄事業は、事業費ベースで約125億円であり、約30億円の減（対前年度伸率0.81）と国予算の対前年度伸率0.99を下回っているが、国のR2補正を加えると約154億円となり前年度と同程度の額が確保されている。

直轄事業の前年度比較（事業費ベース）

	本県の状況						国予算の 対前年度伸率
	R3年度 当初配分額 ①	R2年度 補正配分額 ②	R3当初＋ R2補正③ (①＋②)	R2年度 当初配分額 ④	(R3)対前 年度伸率 ①／④	(R3＋R2補 正)対前年 度伸率 ③／④	
道路事業	9,199	675	9,874	8,888	1.03	1.11	1.02
河川・海岸事業	1,470	1,572	3,042	4,120	0.36	0.74	1.04
河川	1,230	1,472	2,702	3,655	0.34	0.74	1.04
海岸	240	100	340	465	0.52	0.73	1.00
砂防事業	1,178	556	1,734	1,482	0.79	1.17	1.04
港湾事業	630	80	710	940	0.67	0.76	0.98
計	12,477	2,883	15,360	15,430	0.81	1.00	0.99

(注) 1 港湾事業には境港管理組合分を含む。
 2 河川事業、砂防事業の国予算の伸率は治水事業を記載。

(1) 道路事業

- 直轄道路事業として総額約92億円（対前年比1.03）の配分となった。
- 山陰道（北条道路）に43.7億円（対前年度伸率1.38）配分され、令和8年度の供用開始に向けて本格的な事業展開が見込まれる。
- 鳥取自動車道及び山陰道（米子道路）の付加車線整備に計18.9億円配分され、県内高速道路ネットワークの整備が着実に進むものと期待される。
- 直轄権限代行で事業中の江府三次道路（鍵掛峠道路）に17.2億円（対前年度伸率2.36）配分され、令和7年度の供用開始に向けて県境トンネルに着手される。
- 国土交通省中国地方整備局の予算概要に、「中海・宍道湖圏域については、鳥取県や島根県等の関係する自治体と協力し、機能軸強化に向けた検討を推進します。」と記載されており、米子・境港間の規格の高い道路の計画の具体化に向けた検討を、国、県及び関係自治体が連携して行う予定。

箇所名	今回配分額	備考
鳥取西道路	— (約 4.3 億円)	令和 2 年度完了
北条道路	約 43.7 億円 (約 31.7 億円)	橋梁工事、改良工事、用地補償等
志戸坂峠防災	約 1.4 億円 (約 2.2 億円)	調査設計
鳥取自動車道 (付加車線)	約 13.2 億円 (約 16.7 億円)	改良工事、舗装工事等
米子道路 (付加車線)	約 5.7 億円 (約 5.6 億円)	橋梁下部工事等
鍵掛峠道路	約 17.2 億円 (約 7.3 億円)	改良工事等
交通安全	約 7.7 億円 (約 17.3 億円)	歩道整備事業、設置等
電線共同溝	約 3.2 億円 (約 4.0 億円)	米子、千代水、栄町地区
計	約 92.0 億円 (約 88.9 億円)	

※ () は前年度配分額

※ 四捨五入の関係で、箇所別金額と合計金額は一致していない。

(2) 河川事業、海岸事業

○直轄河川・海岸事業は、日野川上細見地区の堤防整備が完了したこと等により、例年並みの総額約 14.7 億円 (対前年度伸率 0.36) の配分、R2 補正を加えると総額約 30.4 億円 (対前年度伸率 0.74) となった。これにより、千代川美成地区における堰改築、斐伊川 (中海湖岸堤) における短中期箇所 (貯木場北地区等) の推進などの他、一級水系の「流域治水プロジェクト」の取組に弾みがつき、令和 2 年度第 3 次補正による「防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策」と一体的に、頻発・激甚化する水害や大規模地震等に備えるための防災・減災対策が一層推進される。

箇所名	今回配分額	備考
千代川	約 2.2 億円 (約 5.2 億円)	堰改築 (美成地区)、 河道掘削・樹木伐採 (美成地区) ほか
天神川	約 2.8 億円 (約 8.5 億円)	浸透対策 (米積地区)、 河道掘削 (生田地区、生竹地区) ほか
日野川	約 3.3 億円 (約 19.5 億円)	堤防整備 (法勝寺地区 (法勝寺川))、 堤防整備 (岸本・小町地区ほか)、 環境整備 (親水護岸) (福市地区)
斐伊川	約 4.0 億円 (約 3.4 億円)	中海湖岸堤 (貯木場北地区ほか)、 環境整備 (覆砂) (米子湾地区)、(護岸) (米子港地区)
皆生海岸	約 2.4 億円 (約 4.6 億円)	人工リーフ改良・養浜工 (富益工区) 等
計	約 14.7 億円 (約 41.2 億円)	

※ () は前年度配分額

(3) 砂防事業

○直轄砂防事業は、激甚化・頻発化する水災害等への対策 (土砂・流木対策) を推進するため、大山山系直轄砂防事業 (日野川 (美用砂防堰堤)、天神川 (穴鴨 4 号砂防堰堤) など) に約 11.8 億円 (対前年度伸率 0.79) が配分された。R2 補正を加えると約 17.3 億円 (対前年度伸率 1.17) の配分であり、「防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策」の取り組みが推進される。

(4) 港湾事業

○境港は、令和 2 年 4 月に供用開始した境夢みなとターミナル等に係る港内静穏度向上に関連する外港防波堤整備及び昭和南地区-13m 岸壁の予防保全に必要な 6.0 億円 (対前年度伸率 0.71) が配分された。

○鳥取港は、千代地区防波堤整備事業に 0.3 億円 (対前年度伸率 0.33) が配分され、R2 補正を加えると 1.1 億円の配分であり、静穏度の向上に向けた取組が行われる。

2 補助事業（県土整備部所管分、事業費ベース）

- 道路事業は、地域高規格道路全体として63.5億円（対前年度伸率0.95）が重点配分された。また、新規で山陰道（北条道路）のインターチェンジアクセス道路として、国道179号はわいバイパスに0.4億円、県道倉吉由良線（北栄工区）に0.3億円が配分され、県道倉吉青谷線（倉吉市八屋～山根工区）の無電柱化推進計画事業に0.13億円が配分された。
- 河川事業については、塩見川（放水路整備）、砂田川（JR橋）を含め、水貫川（排水機場）など計5箇所事業費ベースで9億円（対前年度伸率1.19）が配分され、必要額が確保された。
- 砂防事業については、インフラ長寿命化対策化対策を推進するため大規模更新砂防等事業4箇所約1.3億円が配分されるなど、個別補助事業の全31箇所約10.9億円が配分された。
- 港湾事業は、鳥取港の土砂・漂着ゴミ流入の当面の対策となる第2防波堤の嵩上げに0.7億円（対前年度伸率0.78）が配分された。

補助事業の前年比較（事業費ベース）

（百万円）

	箇所	本県の状況						国予算の対前年度伸率	備考
		R3年度配分額①	R2年度補正配分額②	R3年度+R2補正配分額③(①+②)	R2年度配分額④	(R3)対前年度伸率①/④	(R3+R2補正)対前年度伸率③/④		
道路事業	岩美道路	3,000	1,500	4,500	4,436	0.68	1.01	-	
	北条倉吉道路(延伸)	817	163	980	220	3.71	4.45	-	北条JCT
	倉吉道路	30	70	100	30	1.00	3.33	-	
	倉吉関金道路	1,750	510	2,260	1,926	0.91	1.17	-	
	江府道路	748	0	748	60	12.47	12.47	-	
	国道179号(はわいバイパス)	40	0	40	0	皆増	皆増	-	R3新規
	(主)倉吉由良線(北栄工区)	30	0	30	0	皆増	皆増	-	R3新規
	(主)倉吉青谷線(無電柱化)	13	0	13	0	皆増	皆増	-	R3新規
	道路メンテナンス事業	2,824	467	3,291	4,077	0.69	0.81	-	
小計	9,252	2,710	11,962	10,749	0.86	1.11	-		
河川事業	私都川(JR橋)	80	32	112	20	4.00	5.60	-	
	大路川(排水機場)	150	88	238	366	0.41	0.65	-	
	砂田川(JR橋)	90	0	90	38	2.37	2.37	-	
	塩見川(放水路整備)	250	36	286	132	1.89	2.17	-	
	水貫川(排水機場)	330	2	332	200	1.65	1.66	-	
	小計	900	158	1,058	756	1.19	1.40	-	
砂防事業	大規模特定砂防事業	165	176	341	339	0.49	1.01	-	
	事業間連携砂防等事業	794	17	811	1,166	0.68	0.70	-	
	大規模更新砂防等事業(砂防)	78	0	78	0	皆増	皆増	-	
	大規模更新砂防等事業(急傾斜)	48	0	48	0	皆増	皆増	-	
	小計	1,085	193	1,278	1,505	0.72	0.85	-	
港湾事業	境港	0	0	0	190	0.00	0.00	-	
	鳥取港	70	30	100	90	0.78	1.11	-	
	小計	70	30	100	280	0.25	0.36	-	
計		11,307	3,091	14,398	13,290	0.85	1.08	0.96	

岩美道路	浦富IC～東浜IC間の令和一桁前半の供用に向けて、トンネル工事や橋梁工事など整備推進を図る。
北条倉吉道路（延伸）	令和8年度開通予定が公表されている山陰道「北条道路」の整備に合わせて北条JCT（仮）の用地補償及び橋梁工事など整備推進を図る。
倉吉道路・倉吉関金道路	倉吉西IC～福山IC（仮）間の改良工事、橋梁工事、埋蔵文化財調査など整備推進を図る。
江府道路	新たにトンネル工事に着手するとともに、改良工事の整備推進を図る。
高規格道路ICアクセス	以下の2路線が新たに補助事業として採択され、山陰道北条道路の開通時期に合わせた供用に向けて整備推進を図る。 1. 国道179号はわいバイパス：山陰道（北条道路）はわいICへのアクセス 2. 主要地方道倉吉由良線（北栄工区）：山陰道（北条道路）大栄IC（仮）へのアクセス

3 交付金（当初予算の国費ベース。市町村分・他部局分含む）

- 交付金の合計では、前年度伸率0.95で全国配分総額の伸率0.96と同程度の配分となった。
- このうち社会資本整備交付金は対前年度伸率0.81、防災・安全交付金については対前年度伸率1.03の予算が配分された。
- 国のR2補正において、社会資本整備交付金に約10.9億円、防災・安全交付金に約45.3億円が配分されており、これらを合わせると対前年度伸率は1.36となる。

交付金事業の前年度比較（国費ベース）

（百万円）

交付金名	本県の状況						国予算 の対前年 度伸率
	R3年度 配分額①	R2年度 補正配分額 ②	R3年度＋ R2補正配分 額③＝①＋ ②	R2年度 配分額④	(R3)対前 年度伸率 ①／④	(R3＋R2 補正)対 前年度伸 率 ③／④	
社会資本整備総合交付金	3,147	1,091	4,238	3,905	0.81	1.09	0.86
防災・安全交付金	9,035	4,525	13,560	8,813	1.03	1.54	1.06
農山漁村整備総合交付金	696	0	696	840	0.83	0.83	0.83
計	12,878	5,616	18,494	13,558	0.95	1.36	0.96

第2回中海・宍道湖圏域道路整備勉強会について

令和3年4月21日
道路企画課

日本海側の主要都市圏（新潟、金沢、福井都市圏など）と比較して遅れをとっている中海・宍道湖圏域の将来の道路ネットワークのあり方について、あらゆる角度から幅広い検討を行うため、3月26日に関係自治体による第2回勉強会が開催されました。

日時 令和3年3月26日（金） 午後1時30分から3時まで

場所 米子コンベンションセンター

出席者 中国地方整備局 松浦道路部長、倉吉河川国道事務所 山田所長、
松江国道事務所 藤田所長、鳥取県草野県土整備部長、島根県真田土木部長、
米子市、境港市、日吉津村、松江市、出雲市、安来市の各部長、
NEXCO 西日本中国支社建設・改築事業部長

内容 ○中海・宍道湖圏域における「道路交通課題」「機能軸強化の方向性」について議論し「今後の進め方」について認識を共有しました。

結論 ○当該地域はポテンシャルが高い地域であるが、今後具体的な路線の検討を行うにあたっては広域的な視点をもって道路整備によるストック効果を検討するべき。

○当地域の有する魅力を発揮し、災害時の交通確保、産業振興、ゲートウェイ強化、周遊観光促進を実現させるためには、高規格な道路を早急に整備することが必要である。

○機能軸①、②には有料・無料区間が混在しており、整備方針の検討を実施する。



令和3年3月30日に国土交通省中国地方整備局が発表した令和3年度予算概要に、「中海・宍道湖圏域については、鳥取県や島根県等の関係する自治体と協力し、機能軸強化に向けた検討を推進します。」と記載されたことから、令和3年度には規格の高い道路の計画の具体化に向け国交省、県と関係自治体が連携して検討する予定です。

鳥取西道路の交通安全に関する検討について

令和3年4月21日
道路企画課
警察本部
(交通部交通企画課)

鳥取西道路において2月～3月に連続して交通事故が発生しているとの報道を受け関係者が会し、その事故要因を検証し対策の検討を行いました。

○概要

開催日：4月12日（月） 開催場所：鳥取河川国道事務所

メンバー：国土交通省鳥取河川国道事務所、国土交通省倉吉河川国道事務所、県警本部、鳥取県、NEXCO西日本米子高速道路事務所

アドバイザー：鳥取大学、(一社)鳥取県トラック協会、(一社)鳥取県バス協会・(一社)鳥取県ハイヤータクシー協会、(一社)日本自動車連盟鳥取県支部

○鳥取西道路の事故発生状況（令和元年5月～令和3年3月）

- ・鳥取西道路において今年の2月～3月に連続して交通事故が発生しているとの報道がなされたところ。
- ・事故の多くはインターチェンジ付近に多い傾向がある。
- ・鳥取西道路は道路構造令に適合した構造であり、構造的に問題はない。
- ・事故原因の主なものは、運転手の前方不注意・操作不適と、安全確認不足によるものである。
- ・事故の殆どは物損事故であり、死亡事故は発生していない。
- ・ワイヤーロープ設置により、車線逸脱による正面衝突の重大事故（人身事故）を防止している。



○対策

当面の安全対策として、以下の事項を行うこととした。

- ①注意喚起看板の追加（事故多発・速度注意・速度低下）
- ②中央付近に振動音を発生させる交通安全施設及び導流破線（区画線）の設置
- ③交通マナー向上（走行注意）のための啓発活動



一級水系流域治水プロジェクトの公表について

令和3年4月21日
河川課

国が全ての一級水系毎に流域全体で行う治水対策をとりまとめた「流域治水プロジェクト」について、令和3年3月30日（火）に公表されましたので、概要を報告します。

県内の4水系（千代川・天神川・日野川・斐伊川）については、令和3年3月に開催した、国・県・関係市町村等で構成する水系毎の「流域治水協議会※」における承認を経て、この度の公表に至っています。

この「流域治水」の取り組みにより、堤防整備、河道掘削などのハード対策や土地利用、更には水位計・監視カメラなどのソフト対策が一体となった事前防災対策の一層の加速とともに、対策のさらなる充実と協働体制の強化を図ることとしています。

※【構成員】 関係市町村長、国土交通省各河川事務所長、県 危機管理局長、生活環境部長、県土整備部長
農水省中国四国農政局、林野庁近畿中国森林管理局、国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林整備センター

1. 目的

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、河川整備による対策をより一層加速するとともに、集水域から氾濫域にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行うことを目的としている。

2. 「一級水系 流域治水プロジェクト」の概要

(1) 県内4水系流域治水プロジェクトのポイント

- ①流域内の様々な対策の実施主体として、国・県・市町村等の役割区分を明示
- ②主な対策の実施時期を短期・中長期等に区分し、全体事業費を記載したロードマップを明示
- ③協議会の関係機関が協働しフォローアップしながら、一体となって対策を推進

(2) プロジェクトの主な対策

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ～ 主にハード対策 ～

国・県・市町村による堤防整備、河道掘削・樹木伐採、砂防・治山施設整備、ポンプ場や下水道等の排水施設の整備、利水ダム等の事前放流、間伐等による森林整備、田んぼダムによる流出抑制対策等のハード対策を実施。

被害対象を減少させるための対策 ～ 主に住まい方の工夫・土地利用 ～

土砂災害特別警戒区域内の住宅や避難所の建替え等の支援、現存する霞堤の保全・有効活用、土地利用規制・誘導を実施。

被害の軽減、早期復旧・復興の対策 ～ 主にソフト対策 ～

水位計・監視カメラの設置、河川監視カメラを利用したAIによる河川管理の高度化、支え愛マップ、マイタイムラインの作成や避難スイッチの取組支援、感染症にも配慮した避難所環境整備、内水ハザードマップやため池ハザードマップ作成、浸水深表示板の設置等のソフト対策を実施。

3. 「二級水系における流域治水プロジェクト」の策定予定

県管理の二級水系については、令和3年1月に県管理河川の減災対策協議会（千代川・天神川・日野川の圏域ごとに設置）に「流域治水部会」を設置し、一級水系と同様の「流域治水プロジェクト」を策定中である。

今後、「流域治水部会」による最終案作成の後、5月下旬～6月上旬に開催予定の各減災対策協議会において、プロジェクトのとりまとめを行い、一級水系同様にプロジェクトの推進を図る。

千代川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～流域の人々とともに因幡の治水対策を推進～

- 千代川では、流域全体を俯瞰的にとらえ、流域に関連する機関が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【短期】鳥取市市街地等で、氾濫防止を目的とした河道掘削や築堤、内水対策等を実施する。また、水位計・監視カメラの設置による情報提供等を実施し、被害軽減に努める。
【中期、中長期】気候変動を考慮し、より大規模の洪水による浸水被害を防ぐための検討を行い、更なる対策を推進する。また、あわせて、逃げ遅れゼロを目指した、マイ・タイムライン作成や内水ハザードマップの作成などソフト対策や浸水表示板の設置等を継続的に実施する。

【ロードマップ】

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	袋川の氾濫を防ぐ堤防整備	鳥取河川国道事務所	湯所地区		
	千代川上流の氾濫を防ぐ河道掘削、堤改築	鳥取河川国道事務所	美成地区		
	千代川の堤防の浸透を防ぐ浸透対策	鳥取河川国道事務所	国安地区		
	県管理区間の氾濫を防ぐ河道掘削、河道拡張、樹木伐採、放水路整備	鳥取県	野坂川、湖山川、私細川、砂田川の整備 大路川、大井手川、八栗川の整備 上記以外の箇所河道拡張、堤防整備		
	県管理区間の氾濫を防ぐ特定構造物の改築	鳥取県	県管理区間全体の河道掘削、樹木伐採 大路川、湖山川の特定構造物（水門、排水機場等）の改築等		
	湖山地の氾濫を防ぐ護岸、浸漥	鳥取県	八栗川の浸透対策 湖山地の護岸整備等		
	下流域の氾濫を防ぐためダム適切な管理（長寿命化対策）	鳥取県	佐治川ダム、百谷タムの適切な管理（長寿命化対策）		
	治山・砂防施設の整備、長寿命化	鳥取県、鳥取森林管理署	治山・砂防施設の整備、長寿命化		
	濫用河川及び普通河川の氾濫を防ぐ河道掘削、河川改良	鳥取市	小朝渡河川の整備		
	濫用河川及び普通河川の氾濫を防ぐ内水対策	鳥取市、八頭町	排水施設、排水機場施設の整備、増設		
	洪水の流出を抑制する田んぼダム	兼務活動組織	大路川周辺地域など		
	間伐等による森林整備	鳥取県、森林整備センター、鳥取森林管理署	間伐等による森林整備		
	土砂災害特別警戒区域域内に所在する住宅や避難所の調査等の支援	鳥取県及び関係流域市町	流域内での対応		
	浸水深表示板の設置	鳥取県	流域内での対応		
	土砂災害警戒情報と危険度情報の提供	鳥取県	流域内での対応		

■事業規模

河川対策（約236億円）
下水道対策（約37億円）

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

